

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4472300484
法人名	有限会社 湯布商事
事業所名	グループホーム花の里
訪問調査日	平成 20 年 2 月 28 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 23 日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 4 7 2 3 0 0 4 8 4
法人名	有限会社 湯布商事
事業所名	グループホーム花の里
所在地	由布市庄内町西361番地 (電話)097-582-1311

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年 2月 28日	評価確定日	平成20年 5月 23日

【情報提供票より】(平成20年 2月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年7月3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算	7.2人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,100円			

(4)利用者の概要(平成20年 2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	おぎさホームケアクリニック 小野歯科医院 中宗根病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 開設して7年目を迎え利用者は重度化しているが、重度化の中でマンネリ化を防ぐ取り組みをしている。例えば一人ひとりの利用者の思いや意向を大切に、家族と話し合いながら、生活歴を軸に新たな才能や感性を引き出す場面作りを行っており、職員と共に心の介護で笑顔の輪を広げている。
2. 終末期ケアの取り組みとして、看取りを経験している。看護師が3人勤務しており、重度化に向け協力医との連携も図られている。重度化や終末期ケアについての対応は、利用者、家族、職員と話し合いを行い情報を共有し、確認書も交わしている。
3. 一人ひとりの介護計画書はアセスメントに「認知症のためのケアマネジメントセンター方式」を取り入れ、ホーム独自の工夫も見られる内容であり利用者の思いや生活歴を大切に介護計画書を作成し、見直しも行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価を受けたことにより、新たな気付きもあり改善計画シートを作成し項目ごとに全職員で改善に向けた取り組みをしている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価票は全職員が書き込み職員会議で話し合って作成している。また外部評価の意義は管理者、職員共によく理解している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回定期的に開催している。市の職員、地域包括支援センター職員、利用者家族代表、防災士(地域住民)、利用者代表が参加し評価の報告や参加者の意見をもらい、時にはグループホームより評価項目を出し記入してもらい改善やサービスの向上に向け取り組みに活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時には、近況報告をし金銭管理については通帳のコピーを渡している。また来所の少ない家族にはホーム便りを年4~5回発行しているので近況報告と通帳のコピーやホーム便り等を送っている。意見や苦情は面会や電話で気軽に話してもらい取り組みをし運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民とは実家をホームとして開設しているので気軽に声かけをしてくれ、家庭で取れた野菜を届けてくれる等交流がある。また、ホームとして、地域の方々を誘い梅見のドライブに同伴している。また、老人会に出向きホームの取り組みを話し、職員の趣味活動(日本舞踊)を老人会で披露している。また、利用者の高齢化により地域活動への参加が少なくなりグループホームの行事に地域の方が訪れ地域住民との交流が保たれている。職員の雇用も地元の住民を積極的に採用している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は具体的で『ゆったり、楽しく、温かく』と掲げている。また運営方針に「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える」と明示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全職員で共有し、サービスの提供場面において実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所して7年目になり、利用者も重度化しており地域に出かける事がやや困難になっているが、管理者が地域の老人会に積極的に働きかけ地域住民にホームに向いてもらい交流が持たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い評価の意義を正しく理解している。また前回の外部評価を活かし、新たに改善シートを作成して、改善に向けて取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、市の職員、地域包括支援センターの代表、家族代表、地域の住民(防災士)、利用者代表が参加している。参加者から意見をもらいサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の看護ネットワークで認知症のケアのあり方を講演している。また、市役所に利用者の作品(絵)を展示するスペースを設けてもらい、利用者は作品づくりに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを年4～5回発行しその中に一人ひとりの近況報告を同封している。金銭管理については通帳のコピーを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にアンケートで意見や要望をもらい家族の意見をサービスに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所して7年になるが職員の交代は少ない。また、退職者があった場合は、ダメージを与えないように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成について、新人は管理者、現任職員による現場指導が行われている。また内部研修として防災士による災害時の対応や協力医師による勉強会を開催し、外部研修へも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の看護ネットワークの中で認知症研修で看護と福祉の連携を研修で学ぶ機会が多い。しかし、職員の他グループホームとの交流は少ない。	○	他の関連の事業者や同じ時期に開所した事業所などの見学や学習会は管理者だけでなく、職員も同伴することが望まれる。管理者は職員と交流の機会をもつことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同敷地内にある認知症のデイサービスの利用や、グループホームの見学に訪れている。また、希望があれば事前にグループホームで過ごしてもらい、本人の気持ちを大切にサービス利用となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は喜怒哀楽を共にし、本人の思いを大切にしている。特に職員は利用者に対して、暮らしのパートナーとして「生活を共に楽しむ」ことをモットーにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや訴えを大切に、利用者の視点に立ってケア計画書の中にうまく取り入れており、ドライブ等の希望があれば思いをかなえている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を十分に聞き、利用者の経過をケアカンファレンスを通じて話し合い、利用者の生活歴を活かした介護計画を作成している。なお、アセスメントの項目には、認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を取り入れ詳細な内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に対して3ヶ月に1度評価し、変化に伴い新しい情報を得て介護計画書を随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人暮らしであった利用者が住居を気にする場合、職員が同行して自宅まで手作りのお弁当をもってドライブに行き様子を見る等柔軟な対応をしている。また、かかりつけ医への通院は個々に応じて支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は在宅診療の専門医であるため、気軽に相談ができ、健康管理や栄養状態のアドバイスも受けている。また、他のかかりつけ医への受診は利用者へ同行し適切な医療を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアは開設後グループホーム内で看取りの実例がある。また、3名の看護師が勤務しているため、看取りの体制作りや重度化や終末ケアに向けた方針の共有はできており、家族に対して同意の確認書も交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドを損なわない言葉かけをし、プライバシーを大切にされた対応に心がけている。また、個人情報の取り扱いも十分に管理できている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢化しているため生活のメリハリを大切にして、能力にあった場面作りに取り組んでいる。例えば、食事前の挨拶や洗濯物をたたんでもらう等残存能力を活かした支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3度の食事はホーム内で作り、盛り付けや栄養面も配慮され、味付けも材料を生かしたもので、重度の利用者も介助を受けながら楽しそうに、美味しく完食している。また、お膳を並べたり、後片付けは職員と一緒に利用者が行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望に沿って柔軟に対応し、毎日入れる体制づくりはできている。バイタル等で健康状態を把握し入浴できない場合は清拭、足浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、大正琴、絵画、食前の挨拶、布巾縫い、カレンダーを毎朝めくる、野菜の皮むき、洗濯物たたみ等できることへの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩をして身体機能の低下を予防している。また、車イスの利用者も戸外に出かけるようにしており、外食や栗拾い、花見などは写真に撮り、コミュニケーション手段として写真を通じて思い出を振り返っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることはなく居室の窓や玄関等は解放的である。玄関は威圧感はなく家庭的な出入口である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練は実施し、防災士による避難、誘導の講習を受けている。また、近隣の人々には災害に対しての連携ができており、敷地内を地域住民の避難場所として提供している。しかし、災害に備えての備蓄は、まだできていない。	○	地域への協力体制の継続をお願いしたり、災害時の備蓄(水分、食料、寒さに備えての毛布等)をする事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態の維持に備え看護師が3名在籍しており、嗜好調査や口腔アセスメントをとって献立に活かしている。また栄養量、水分量は記録しており職員は摂取量の把握に努めている。食前の嚥下体操も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる絵や壁掛け、歴史が蘇る置物もあり、入り口には昔懐かしい物を置いている。廊下やロビーには本箱があり、いつでも手にとって読書が楽しめる。居間には季節に合わせ手作りのお雛様が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋に時計を置き、似顔絵や利用者の作った俳句や俳画も掛けている。また、タンスや仏壇等個々の使い慣れたものが配置され、好みを活かした居室づくりである。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム花の里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県由布市庄内町西361番地
記入者名 (管理者)	佐々木 千代子
記入日	平成 20年 2月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『ゆったり 楽しく 温かく』の理念の基、5項目の運営方針を掲げている 5項目の内容は利用者の心身の維持向上、地域と共に暮らしていくこと、また職員も笑顔で明るく楽しく働ける職場であることを掲げている	
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務を行う中で時としては理念や運営方針に目をやり確認を行っている	
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域とのかかわりが今一つ充実していないが年に2回の広報で理念や取り組んでいることを配布して知ってもらおうきっかけを作っている	○ 時間がかかると思うが地域とのつながりを充実させたい
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	グループホームの代表と管理者の生家であることから、当然昔のままの付き合いが現在でも続いており、地域の方々やその他の外来者もあり気軽に入居者に声をかけたりしてくれている	
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表は活動の参加や交流はあるが、入居者は高齢になり出かけて参加はすることが少なくなっている 祭りやその他の行事等にはホームの方に地域の方が出向いている	○ 地域住民も過疎の上に高齢化が進んでいるが、計画していることはサークル活動(絵画、手工芸、踊り)を入居者と地域の方々始める

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の一人暮らしや高齢者の二人暮らしの方を対象に『困った時にはお手伝いします』というチラシ配りをしている	○	現在、隣近所で支え合い生活しているということですが、将来的には何らかの形で役に立ちたいと思っている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行い外部評価を受けることにより、新たに気付くことや改善すべき点に分かり、より良いケアにつなげていきたい		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行っている	○	内容についてもう少し検討していきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実施していない	○	同一敷地内にあるデイサービスにおいて活動の中での利用者さんの絵を市役所に展示出来るようになったこれを機にグループホームも作品等を通し、励みになればと思っている
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前に一度話を聞いたことはあるが、よく理解していない	○	学ぶ機会があれば受講し、今後必要な人に支援していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	絶対にあってはならないこととして、職員全員が認識している	○	虐待が起こる理由を考え、未然に防ぐ対策を講じていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>最初にきちんと説明を行い、納得の上署名・捺印をもらっている</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>困っていることや言いたい事はないか等、問いかけをしている</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホームの便りの発行 個別にも近況を知らせている 金銭管理についても通帳のコピーを送っている</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情の受け付けを明確にしている ホーム内には掲げている</p>	<p>○ 定期的に(年に1～2回程度)アンケート等で意見や要望を聞く機会を持つ</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ホームの内容をより充実するよう、そして選ばれるホームでありたいと思っている 日々の中で職員の意見は大きいと考えている</p>	<p>全体会議を持つ必要性のある内容については機会を設ける</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者本位で考え、行動している</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開所当初より職員に大きな変動はないが、全くないわけではない 退職者が出た場合でも早急に職員の確保にあたり、利用者への影響がないよう努めている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>無資格の職員もいるために研修や講演会等出来るだけ受講するように勧めている</p> <p>新人については管理者や職員から現場にての指導が多い</p>	<p>○</p> <p>研修も人数制限があるために申し込みをしても受講できないことも多い</p> <p>もう少し枠が広がると良いと思っている</p> <p>ホーム内においても学習の機会を設ける</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同一敷地内に他の事業も運営していることから同業者との交流は多い、また由布地域看護ネットワークに出席することも多く、看護・福祉においていろいろな勉強の機会を得ている</p>	<p>○</p> <p>事業所同士の交流を密にし、もう少し幅広い活動が出来ればと思っているが、現状当ホームでのかかわりで精一杯という気持ちもある</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の体調には気を配り勤務体制も無理のないようにしている</p> <p>何でも言い合える楽しい職場作りを目指している</p> <p>慰労会も時々行っている</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員一人一人の長所を認め、お互いが助け合いの気持ちで働いている</p> <p>自分なりの介護観を持っている</p>	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>直近の入居の方はいないが現在当ホームのケアの姿勢は利用者の訴えに耳を傾け真意を汲みとるということをテーマにしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者と同じ様に家族の困っていることや求めていることはしっかりと聞いて出来る限りの努力をする</p> <p>家族の負担の軽減も私たちの役割と思っている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	○	一方的に介護してあげるといった場面が見られたら、お互い注意し合うような職員間であることを指導していく
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>契約終了後も家族はイベントなどに出向いて交流が続いている 又入居相談等もある</p>	○	今後契約終了後も相談やその他でも頼られるホームでありたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>現状を理解出来にくい認知症の方の本人の思いや希望は、本人の気持ちになり聞くこと、一緒になり考えてあげて実践している</p>	○	本人が職員の対応で混乱したり興奮したりしないかかわりする
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>背景や情報を知ることにより、話の内容が広がったり心の安定にもつながると思っている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>ADLや心身の状況等、職員全員が正確に理解の統一が出来るよう定期的に会議を持つ このことがケアプランにもつなげている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>その人にとって今何が大事なのか何を必要としているのか、職員間で話し合いケアプランに活かしている</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>各々の内容によって期間を定め見直しを行っている 評価時期のずれることもある</p>	○	定めた期間で評価を行い、より良いケアにつなげていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		<p>これまでにいろんな書式を使ってみたが、今後もより良い記録に向けて検討していく</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	<p>警察に協力してもらい身を守るための話をしてもらったり、時々立ち寄ってもらい、どんな人が生活しているのか覚えてもらうのも良いと思っている</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	○	<p>今後、状態に合わせ必要性の生じた時は本人・家族との話し合いのもと考えていきたい</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	<p>今後、必要性が生じれば協働していきたい</p>
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>本人・家族の希望を第一優先で考えてくれる医師でありホーム側も安心している</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症の理解を深め今まで以上に力を入れているところである 十分に気をつけ対応している	○ 更に勉強会を行い反省点や今後のかかわり等、マンネリ化しないためにもチーム全体で考えていく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	8年目を迎えた今認知症について、又利用者一人ひとりがその人らしくいつまでも暮らしていくためにも持てる能力は生かせるよう支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	働きかけがないと、ともすればメリハリのない生活になりがちのため、スタッフはその人に合った、又能力に合った場面作りをしていく	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身体機能の低下もあり、美容院に出かけることも少なくなったが、本人の意向は大切にしている 又日常の身だしなみにおいても気をつけ行事等の時は化粧をしたりしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に栄養のバランスと見た目の楽しみも考えている 出来る方も少なくなってきたが、出来るだけその人の能力に応じ一緒に行うよう努めている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの好みや体調に合わせて行っている 酒好きな人もいるが、たまにはアルコール類も出すようになっている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけ能力に近い状態で過ごせるよう支援している スタッフがやりやすいということではなく、本人にとって気持ちの良さを考えている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の取り決めはあるが、その時の本人の体調や気分に合わせて対応しており、本人が気持ちよく入浴できるよう努めている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間や一日のリズムがあり、そのことをスタッフは理解している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	メリハリのある生活が一日の中で出来るよう、その人の生活歴や背景を知り、働きかけをしている	○	落ち着いて笑顔の見られる場面作りをしている 例えば、出身県をインターネットで調べたりしての話題作り等
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆ど自分でお金を持って買い物に行くことはない	○	一人の人に体験してもらったら千円札を出しておつりをもらうことがあった ホーム内で年1回店開きをして買い物気分を味わう
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	状態に合わせて庭までの人や周辺を楽しむ人、散歩や外出等なるべく外に出来ることを心掛けている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	高齢と心身の状況から難しいところである (以前は遠方の兄弟が集まり旅館に一泊したりもあった)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>人によっては電話をかけたり、かかってきたりもあるが、字を書くことは年賀状等勧めてはみるが書くまでにはいかない</p>	<p>○</p> <p>一言でも良いから今後勧めていきたい 一つの取組みとして絵画教室も計画しており、絵手紙等を考えている</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>ホームの雰囲気と働くスタッフの人柄か、家族や外来者は訪問の際は気持ちよく過ごしてくれていると思っている</p>	
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>スタッフは身体拘束をしてはいけないことの意味をよく理解しており、危険を及ぼす行動のある利用者に対しても全員が話し合いのもとケアについて考えている</p>	
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>現在のところ鍵をかけなければならない状況はないし、そのような事が今後考えられても話し合いで対策を考えていく</p>	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>一人ひとりのADLや心身の状況を理解しておりケガや事故のない様に努めている 常にスタッフには安全ということの統一をしている</p>	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>消毒物や洗剤等の危険な物の管理として、一ヶ所に置き夜は鍵をかける</p>	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>窒息や誤薬による生命の危機の恐ろしさを常に周知させ、未然に防ぐことに力を入れている 火災も同様、事の恐ろしさの大きさを知っている</p>	<p>○</p> <p>年2回の消防訓練を行い、利用者の救出法を考えている 窒息においても利用者の嚔下状態を把握している いつ何が起きてもおかしくないことを頭に入れておく等のスタッフ教育をしている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>利用者の急変においては、その場に居たスタッフが役割を發揮できるようにと徹底している スタッフの多くは救命救急法を学んでいるが、いざとなった時には出来ないと思う</p>	<p>○</p> <p>定期的な救急法の講習を受ける ホーム内でも介護職と看護職の立場で対応についての勉強をしていく</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>いつ起きるか分からない災害に合わせて防災士の話を聞いたり、近隣の方にもお願いをしている</p>	<p>○</p> <p>具体的な行動が出来るよう地域の人も含めて考えていきたい</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>いつ何が起きてもおかしくない状態の方が多いが、だからと言って何もしないことが良いわけではないことを面会や家族会の折にも話している</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝のバイタルチェックやかかわりの中で状態の変化の気付きに努めている 持病や気をつけなければならない症状の把握、必要時の血液検査も行っている</p>	<p>○</p> <p>年に1回はX線やEKG検査を入れていく 血液検査は年3回を考え、この1月から行っている かかりつけ医との連絡もしっかりとれている</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>看護職による管理の下しっかり出来ている 新しい薬についての副作用の発見も見逃さない</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>殆どの利用者に多い便秘だが水分を多く採ることの勧めや活動、ストレスの解消に力を入れ、なるべく自然便を期待している</p>	<p>○</p> <p>便チェック表により現状を把握し、便秘が及ぼす精神症状をなくすようにしている 早めの対応を心がけ苦痛を最小限にする</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔衛生がいかに高齢者にとって大切かを理解しており三度の食後には必ず行っている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつまでも健康でいられる事を願い、又人間にとって食べて健康を維持出来ることの幸せを思っている 量や調理方法等工夫している	○	昨年は地域の意志により高齢者に多い症状と題し、脱水・便秘・肺炎ということで話をしてもらった 食事以外に水分1,000mlを目標にしている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染性の疾患がホーム内で流行すると、いかに大変かをスタッフや利用者にも話すことが多く、力を入れている (手洗いうがい・てすりや便座の消毒・ペーパータオルの使用)	○	保健所等からの注意の呼びかけ 具体的な消毒の濃度等も参考にし、看護師の指示の下徹底している
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いや調理器具の消毒や調理場の衛生面には気を配っている 特に消費期限や生ものの魚類を出す時は、新鮮であると同時に時期的な事も考慮している	○	衛生月間等を設けてチェック項目等によりスタッフの志気を高めている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	古くから地域にある民家のため誰でも気軽に立ち寄り、ホームらしくないホームと思っている	○	庭を見るだけでも四季を感じられ、灯籠や昔を偲ばれる句碑や釜等も置かれている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見るからにきれいに片付けられているとは思えないが、季節に沿った絵や壁掛け、歴史を想わせる置物等があり生活感を出している 近代的でないことが良いと思っている	○	季節感が感じられるよう四季や行事等に合わせた居間の工夫をしている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いながらも食堂の隅にテーブルを置いたり、廊下にソファを置いたりして一人になれる場所を作っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	今後新しい入居の方があれば混乱せず生活になじむ様、考えていきたい
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	狭い空間で9人の利用者とスタッフが生活しており、特に気になる臭い等はない様に気をつけている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	利用者の状態の変化に伴い、必要性に応じ環境を整えている
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	気持ちを大切にしており、決して無理強いしない本人の心地よさを大切にしたい
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		豊かな自然環境の中、四季折々の風景を感じられる広い運動場には藤棚があり、春には藤の花が咲き乱れ癒しとなっている

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

高齢化と重度化の進む中、落ち着きと安心のある暮らしに力を入れている

- ・精神面においては、しっかり訴えを聞いて一緒に考えていく
- ・身体面においては、症状を見逃さず早期の対応
- ・終末ケアにおいては、本人がこのままホームで暮らすことがベストであり家族もそのことを望むなら主治医との相談の上行っている 実際に見取りの経験もあり、お互い良かったと思えた